

# 保育現場でのアートによるアクションリサーチ

笠原広一 編著 学芸の森保育園 協力

## アートがひらく保育と子ども理解

多様な子どもの姿と表現の共有を目指して

A5判 並製・222頁・定価：本体2,000円＋税

ISBN978-4-901665-59-9 C3037 ¥2000E

東京学芸大学学芸の森保育園が取り組んでいる専門家と連携した造形活動や研究会、作品展やカンファレンスなど、アートによる保育の質的深化の実践と、保育者や保護者へと多様な子ども理解の共有を広げる取り組みの記録。基盤となる乳幼児の造形活動の実践と理論も合わせて収録した一冊。

### 目次より

#### 第一部 保育の中に見えてくる子ども・人間・多様性

1. アートがひらく保育の中の子どもの多様な姿と育ち 2. 生活の中に潜する多様な生の可能性

#### 第二部 保育とアート・乳幼児の造形活動の理論と実践

3. 子どもにとっての造形表現の意味とその見取り 4. <自然/生命>を軸とした造形芸術による教育とその可能性 5. アートによる探究的な保育実践の可能性について 6. 造形活動が園全体に深く根づくことによつてどのような保育の広がりや深まりが生まれるのか 7. 表現活動を通じた子ども理解 8. 子どもの描画・感性・創造性を考える西洋児童画教育の思想の系譜 9. 子どもの描画過程の研究と子ども理解の可能性 10. 保育者養成における表現教育と学術研究について

#### 第三部 子ども理解の共有化の取り組み

11. 学芸の森保育園の取り組み 12. 学芸の森保育園での連携造形活動の取り組み 13. 親子ワークショップ「ならべる、つなげる、つみあげる——子どもの成長に立ち会おう——」の実践から 14. 連携造形活動は何を伝え感じさせたのか 15. アートによる保育と子ども理解の共有化の方法と可能性



### 【編著者、執筆者紹介】

#### 笠原広一（かさらは・こういち）

東京学芸大学教育学部准教授（美術教育学）。九州大学大学院統合新領域学府博士後期課程修了、博士（感性学）。主な著書に『子どものワークショップと体験理解：感性的な視点からの実践研究のアプローチ』（単著、九州大学出版会）、『美術教育学の現在から：美術教育学叢書1』（分担執筆、美術教育学叢書企画編集委員会・永守基樹責任編集）などがある。

#### 執筆者

欽矢悦朗、真木千壽子、山本一成、平田智久、磯部錦司、森 真理、伊藤裕子、吉川暢子、要 真理子、栗山 誠、高橋敏之、小室明久、加山総子、東南さゆり



[TEL] 042-329-7797 [FAX] 042-329-7798  
[HP] <http://www.u-gakugei.ac.jp/upress>

東京学芸大学出版会

ご注文は JRC へ FAX 03-3294-2177 TEL 03-5283-2230

書店名	部数	発行 東京学芸大学出版会 Tel.042-329-7797 Fax.042-329-7798
		『アートがひらく保育と子ども理解——多様な子どもの姿と表現の共有を目指して』 笠原広一 編著 A5判 並製 222頁 定価 [本体 2,000円＋税]
	冊	ISBN978-4-901665-59-9 C3037 ¥2000E

※返品条件付き注文扱い